

《担当者名》 鎌田樹寛 t.kamada@hoku-iryo-u.ac.jp 本家寿洋

【概要】

さまざまな障害を持った新生児から高齢者の方々が地域の中で、日常の営みとしての作業（家事や仕事の「仕事の活動」、
「身辺処理活動」、レクリエーションやレジャーなどの「遊び的活動」を意味する）やこれらの作業の遂行を基盤とした社会参加を促進するためのニーズとその実現を目指す支援のあり方に関して、地域健康生活支援学特講 で講義された内容に基づいた理論の適合性や必要性を事例の適用を通して演習する。具体的には、作業行動理論とその臨床モデルである人間作業モデルを中心に適用された事例について、適合性や必要性を検討し考察する。

【学修目標】

一般目標

人間作業モデルの有用性について事例を通し考察し、具体的案件の課題解決に関する理解を深める。

行動目標

1. 院生は各自のテーマにおいて、主として人間作業モデルを適用するメリットや必要性が理解できる。
2. 適用された事例を通して、理論やモデルの有用性や汎用性について考察できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 15	課題省察と討論	院生各自のテーマに関する実践例を自ら解説、展開し、その有用性や適合性への考察を深めるため、関連参考資料を基に教員との討論や自らの調査を中心に授業を組み立てる。	鎌田樹寛 本家寿洋

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

教員との討論や自らの解説等による理解の深化や考察の充実を重要視する。
プレゼン課題100%

【教科書】

適宜指示する。

【参考書】

同上

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること（各80分）。

【実務経験】

鎌田樹寛（作業療法士）、本家寿洋（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床や地域実践に基づく作業行動学的観点からの課題や問題解決への考究